

**特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。****( 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)****< 特筆すべき教育活動 >**

- 1 .薬剤師認定制度認証機構より認証されたMCS (Master of Clinical Science) コースを継続し、平成21年度は総数9名(うち薬剤師 8名、看護師 1名)に対し、MCSの称号を認定した。
- 2 .特別教育研究経費「高度医療を担う次世代型専門薬剤師育成のための実践的臨床薬学教育システム構築」により、平成20年度より「生活習慣病治療薬学分野」および「がん化学療法薬学分野」を新設し、「医師に協力して処方設計に関与する薬剤師」という他大学にない新しいタイプの薬剤師教育システムの構築に取り組んでいる。
- 3 .平成20年度より薬剤師として活躍する社会人を対象とした博士課程前期2年の課程腫瘍専門薬剤師養成コースを開設した。平成21年度は 1名の修了生(修士)があり、日本病院薬剤師会が認定するがん薬物療法認定薬剤師を取得した。なお、本コースは平成21年度10月募集より、博士課程後期3年の課程に変更し、募集を開始している。
- 4 .平成21年度に新設した地域薬局学寄附講座が主体となり「薬学研究科主催 地域薬剤師研修会」を3回開催し、のべ326名の現場薬剤師等の参加を得た。

**< 特筆すべき研究活動 >**

- 1 .大槻純男准教授は、「バイオマーカー探索を加速する遺伝子情報からの新たなタンパク質群一斉定量技術の開発」が評価され、第23回先端技術大賞「特別賞」を受賞した(平成21年7月)。
- 2 .菊谷昌浩助教は「Day-by-Day Variability of Blood Pressure and Heart Rate at Home as a Novel Predictor of Prognosis: the Ohasama Study」の研究で日本高血圧学会 Young Investigator's Award 最優秀賞を受賞した(平成21年10月)。
- 3 .竹内英夫教授は、「ラマン分光法によるタンパク質構造解析のための知識基盤の開発と応用」により日本分光学会賞を受賞した(平成21年11月)。
- 4 .守屋孝洋准教授は、「Period 遺伝子の発現制御を介した概日時計のリセット機構に関する研究」により日本薬理学会第25回学術奨励賞を受賞した(平成22年3月)。

**< 特筆すべき社会貢献活動等 >**

- 1 . 附属薬用植物園の活動  
附属薬用植物園は一般市民に開放しており、薬用植物や有毒植物の知識の普及・啓蒙に努めた。さらに、宮城県と宮城県薬剤師の協力のもとに設置された「日本薬用植物友の会」(会員数:約300名)に薬用植物の観察の場を提供し、薬用植物に関する知識の啓蒙活動を行った。また、友の会が主催する植物観察会や講演会活動を全面的に援助した。国際逐次定期刊行物として登録され、国立国会図書館にも寄贈されている友の会会報の編集でも中心的役割を果たした。加えて、「生薬・漢方薬認定薬剤師のための薬用植物園実習」を2回実施した。
- 2 . 生活習慣病やその合併症の発症の予防  
今井潤教授が中心となって行っている「大迫研究」は、生活習慣病やその合併症の発症の予防に貢献した。同教授が中心となり、降圧薬服用者の家庭血圧コントロールに関わる要因と予後・臓器障害との関連を明らかにするために推進している臨床疫学研究「J-HOME研究」は、個々の患者の治療に貢献するとともに、高血圧治療における薬物療法基準を示した。